

I am Jazz! (ジャズ・スーパー列伝)

ジャズの発展に貢献し、その歴史に名を刻んだ名プレイヤーたち。その人生は、楽器が異なる如く千差万別。このコーナーでは、そんな個性的なジャズマンたちの功績を称え、生き様を紹介することで、より多くの人々にジャズの素晴らしさを伝えていきたい。

Vol. 74

Max Roach 【マックス・ローチ】

～歌うドラムは永遠、ジャズ史に輝く名ドラマー～



Photo : Max Roach "Milestones of a Jazz Legend" (Membran)

Profile

1924年1月10日、米国ノースカロライナ州ニューランド生まれ。本名はMaxwell Lemuel Roach。4歳の時にNYブルックリンに移り、ゴスペル歌手であった母親の影響で、8歳の頃に教会でピアノを習い始め、10歳の頃にはゴスペル・バンドでドラムを叩いていた。10代後半で、ミントンズ・ブレイハウスやモンローズ・アップタウン・ハウス等のジャズ・クラブのジャム・セッションに参加。ケニー・クラークのドラムに影響を受け、チャーリー・パーカーやディジー・ガレスピーと共演。43年にコールマン・ホーキンスのグループに参加。45年から53年にかけて、チャーリー・パーカー、ディジー・ガレスピー、マイルス・デイヴィス等の録音に参加。52年にチャールス・ミンガスとデビュー・レコードを設立。53年に初リーダー・アルバムを発表。53年5月15日にカナダ・トロントのマッセイ・ホールでのチャーリー・パーカー、バド・パウエル、ディジー・ガレスピー、チャールス・ミンガスとの共演がレコード化される。54年春にクリフォード・ブラウンと双頭クインテットを結成。60年チャールス・ミンガスとニューポート・ジャズ・フェスティヴァルに対抗するジャズ・フェスティヴァルを開催。62年にアビー・リンカーンと結婚（70年に離婚）。70年にメンバー全員がパーカッションユニット、ン・ブームを結成。72年にはマサチューセッツ大学の教授となる。70年代後半には、アンソニー・ブラクストン、アーチャー・シェップ等、フリー・ジャズ系のアーティストとも共演。85年と87年にアップタウン・ストリング・カルテットとの作品を発表。2002年に発表したクラーク・テリーと連名アルバム『フレンド・シップ』が最後のレコーディングとなる。2007年8月16日、米国ニューヨーク州の病院で息を引き取る。享年83歳。

ローチ・クインテットが1949年にレコーディングした5曲を収録

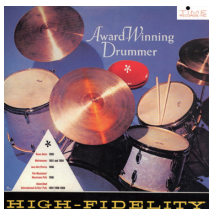


マックス・ローチ・クインテット
マックス・ローチ
(現在廃盤)

マックス・ローチ (ds)、ケニー・ドーハム (tp)、ジェームス・ムーディ (ts)、アル・ヘイグ (p)、トミー・ポッター (b)

1. ベイビー "シス"
2. トゥモロー
3. プリンス・アルバート
4. ジャスト・ムーディ
5. マキシマム

最初のローチ・クインテットの作品



アワード・ウィニング・ドラマー
マックス・ローチ
(Solid/Time : CDSOL-45380)

マックス・ローチ (ds)、ブッカー・リトル (tp)、ジョージ・コールマン (ts)、レイ・ドレイパー (tu)、アート・デイヴィス (b)

1. チューバ・デ・ノット
2. ミラ
3. ヴァリエーション・オン・ザ・シーン
4. パイズ・オブ・クインシー
5. オールド・フォークス (他、全7曲)

1959年から60年の録音を収録



コンプリート 1959-1960 スタジオ・レコーディング
マックス・ローチ
(Fresh Sound : FSRCD-6662)

マックス・ローチ (ds)、トミー・タレントイン (tp)、スタンリー・タレントイン (ts)、ジュリアン・ブリースター (tb)、他

- [Disc-1] ザ・モア・アイ・シー・ユー (他、全14曲) [Disc-2] 1. アイ・コンセントレイト・オン・ユー (他、全11曲)

1949年5月15日

仏パリで録音されたマックス・ローチ・クインテット名義の作品。クインテットのメンバーはケニー・ドーハム、ジェームス・ムーディ、アル・ヘイグ、トミー・ポッター。「ベイビー "シス"」「トゥモロー」「プリンス・アルバート」「ジャスト・ムーディ」「マキシマム」の5曲を収録。マックスの熱いドラム、ケニーのトランペット、ジェームスのテナー・サクソも素晴らしく、初期のローチ・クインテットの熱演が聴ける。

1956年6月に盟友

クリフォード・ブラウンが自動車事故で亡くなり、人気双頭クインテットであったブラウン＝ローチ・クインテットが終焉を余儀なくされた。本作は1958年に録音されたブラウン＝ローチ・クインテット以降、最初のローチのクインテット作品。ブッカー・リトル、ジョージ・コールマンにチューバのレイ・ドレイパーを従え、ピアノレスの変則クインテットで7曲を収録。マックスの闘志 & 魂を感じる渾身のアルバム。

1959年から60年に

かけてのマックスのバンドの録音を収録した2枚組作品。トミー・タレントインとスタンリー・タレントインのタレントイン兄弟をフィーチャーし、ジュリアン・ブリースター (tb) を加えた3管編成で挑んでいる。[Disc-2] に後にマックスの妻となるアビー・リンカーンの「アビー・イズ・ブルー」からの4曲が収録され、アビーのヴォーカルも聴ける。ラストの17分に及ぶドレシー「パシアン・ス ケッチズ」も必聴。

アビー・リンカーンとの出会い

マックス・ローチは1962年から1970年まで、女優でジャズ・ヴォーカリストのアビー・リンカーンと結婚していたことはジャズ界では有名な話。2人の出会いは1957年頃で、マックスは1957年にアビーのアルバム『ザッツ・ヒム!』に参加。その後、アビーもマックスのアルバムに参加。1961年にはマックスがアビーのアルバム『ストレート・アヘッド』に参加。アビーは結婚後マックスを支えながら女優としても活動し、プライベートではマックスの影響で公民権運動を支持するようになった。アビーは2010年8月、ニューヨークで80歳の生涯を閉じている。

マックス・ローチのサイン

本誌「Vol.21」の巻頭特集で公開しているが、本誌編集長はNYでウェイターをしていた頃、マックス・ローチ本人にサインを貰っていた。1人でレストランに来てお寿司を食べていたマックス・ローチが、店を出た直後に裏口から飛び出して、8th Ave. の道端でサインを頼み、快く応じてくれた。「Thank you Max Roach」というサインの他、ドラムのイラストと9/23/93と日付も記載してくれた。編集長が初めて買ったジャズのアルバムは『ジャズ・アット・マッセイ・ホール』で、当時唯一生き残っていたメンバーがマックス・ローチだった。

Jazz Standards (ジャズ名曲列伝) vol.47

~ Polka Dots And Moonbeams [水玉模様のドレスと月の光] ~

この曲は作詞はジョニー・バーク、作曲はジモニー・ヴァン・ヒューゼンで、1940年にフランク・シナトラがトミー・ドーシー・オーケストラのバックで歌い初録音されヒットを記録した。邦題は「水玉模様のドレスと月の光」。その後もサラ・ヴォーンやウェス・モンゴメリー、ビル・エヴァンス等が取り上げ、現在まで数多くのアーティストに親しまれている。ミュージカルや映画の主題歌等とも関係なく名スタンダードとなった点では珍しいナンバー。

★この名曲が聴けるお薦めのアルバム

- ドナルド・バード 『バード・ブローズ・オン・ビーコン・ヒル』
- チェット・ベイカー 『チェット・ベイカー・イン・ニューヨーク』
- ブルー・ミッチェル 『ブルー・ソウル』
- ウェス・モンゴメリー 『インクレディブル・ジャズ・ギター』
- ビル・エヴァンス・トリオ 『ムーンビームス』